

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
K-3	○	○	○	○	○	○

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)
K-3 (表層)	38.0458°	140.9518°	R2.7.8	08:55	09:16	22.4	15.5	砂混シルト	5Y3/2	なし	21.5	3.0
K-3 (下層)				08:25		16.4						

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
K-3 (表層)	38.0458°	140.9518°	R2.7.8	08:55	8.3	2.1	5.0	8.4	3880	25.04	2.1	4	4.7	N.D. (0.0014)	0.0040	—
K-3 (下層)				08:25	7.9	0.6	3.2	7.5	5010	33.61	1.1	13	5.7	N.D. (0.0015)	0.018	0.00077

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)	
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)				最大粒径 (mm)
K-3	38.0458°	140.9518°	R2.7.8	09:16	7.7	19	30.6	3.7	6.8	2.708	0.0	0.0	0.3	47.4	40.1	12.2	0.072	0.85	5.0	120	N.D. (0.13)

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム (Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
阿武隈川河口 周辺海域	阿武隈川河口 前面海域	—	—	R2.7.4	節足動物	軟甲	エビ [*]	ワカガニ	<i>Portunus trituberculatus</i>	ガザミ	2	0.54	成体	—	—	0.33	N.D. (0.33)	0.33	—
					脊椎動物	硬骨魚	カレイ	カレイ	<i>Pleuronectes yokohamae</i>	マコガレイ	1	0.11	未成魚	不明消化物	内臓除去	N.D.	N.D. (0.52)	N.D. (0.51)	—
					脊椎動物	硬骨魚	カレイ	カレイ	<i>Eopsetta grigorjewi</i>	ムシガレイ	3	0.41	未成魚	不明消化物	内臓除去	N.D.	N.D. (0.31)	N.D. (0.31)	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	タイ	<i>Pagrus major</i>	マダイ	1	1.4	成魚	空胃	内臓除去	1.3	N.D. (0.33)	1.3	0.030
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ [*]	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	マハゼ	8	0.13	未成魚/成魚	—	—	1.2	N.D. (0.50)	1.2	—
					脊椎動物	硬骨魚	フグ [*]	フグ [*]	<i>Takifugu niphobles</i>	クサフグ	4	0.20	成魚	不明消化物	内臓除去	0.83	N.D. (0.58)	0.83	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。